

## オレゴン州：小麦作柄と気象状況

2005年8月9日

### 2005年8月7日現在の概況：

8月7日に終わる週の気象は、海岸地方を除き4週続きの高温・乾燥気象であった。気温は多少前週より下がったが、NC地区の平均気温は平年を4～10度F上回り、最高気温は97～102度Fであった。Willamette盆地でも高温が続き、平均気温は平年を4～10度F上回り、最高気温は96～99度Fであった。降雨は記録されなかった。1週間の州平均農作業稼働日数は7.0日（前週：7.0日）であった。Topsoil及びSubsoilの土壌水分は各地にて前週より悪化した。Willamette盆地の各郡の冬小麦の収穫が最盛期に入った。NC地区Sherman郡では小麦の収穫は最終段階に入り、単位収量は圃場により大きな差が出ていると報告された。単収の差は、土壌の深さに大いに関係があり、浅い土壌は水分不足となりがちで有り、7月の高温乾燥が単収を落とす原因となった。WASCO郡の冬小麦の収穫は最盛期であり、単収は良好という。春の適時の降雨と6月の平年以下の気温と降雨が良い結果を生んだ。但し、春小麦は7月の高温乾燥で単位収量は悪い。冬小麦並びに春小麦の作柄評価は前週より多少良くなった。

NC地区の収穫初期のSoft White小麦の品位は、容積重は59.23～60.0 lbs/bu(PNW地区昨年平均:60.0lbs/bu)、蛋白(水分12%ベース)は10.6～10.9% (昨年平均:10.3%)、1000粒重は33.0～34.2 gr(昨年平均:33.3gr)であり、2004年産と大差は見られない。但し、未だ少数のサンプルの分析結果である。

7月1日付けUSDA発表の冬小麦の生産予想では、単位収量は6月1日付け発表の58.0 bushels/acreより3 bu/ac多い昨年実績と同じ61.0 bu/acとなった。春小麦の生産量では、単位収量は昨年実績より良く57.0 bu/ac(昨年:48.0 bu/ac)であった。6月からの降雨により土壌水分が改善された事、急激な温度上昇が無かったことがプラス要因となった。詳細は別表の通り。

### 土壌水分：8月7日現在

	Very short	Short	Adequate	Surplus
Topsoil (%)	23	48	28	1
Subsoil (%)	25	36	39	0

### 小麦生育状況：8月7日現在

	This Week	Last Week	Last Year	5-Year Ave.
Spring wheat Harvested(%)	45	20	21	33
Winter wheat Harvested(%)	55	29	46	51

次ページへ：

小麦の作柄状況：8月7日現在

	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent
Winter Wheat					
This week (%)	2	10	22	44	22
Last week (%)	0	16	26	46	12
Spring Wheat					
This Week (%)	19	24	21	30	6
Last Week (%)	21	29	12	29	2

Source: Oregon Agricultural Statistics Services

7月1日付けUSDA発表冬小麦の生産量予想：

State	Harvested Area 1,000 Acres		Yield Bushels/acre			Production 1,000 Bushels	
	2004	2005	2004	2005		2004	2005
				June 1	July 1		
OR	780	840	61.0	58.0	61.0	47,580	51,240
USA	34,462	34,271	43.5	44.1	44.5	1,499,434	1,525,302

7月1日付けUSDA春小麦生産量予想：

State	Harvested Area 1,000 acres		Yield Bushels/acre			Production 1,000 bushels	
	2004	2005	2004	2005		2004	2005
				June 1	July 1		
OR	175	125	48.0	-	57.0	8,400	7,125
State	13,174	13,637	43.2	-	43.2	568,918	588,740

この作柄・気象レポートに関してのご質問は下記にお願い致します。

小川正晃：<mailto:ogawa.max@omicnet.com>